

## 河川砂防技術研究開発公募(河川技術分野)平成22年度採択テーマ

### 事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
河川管理のための藪化・樹林化の主原因の同定-地形変形・植生遷移の予測-対策評価のシステム構築(研究期間:H22年~H24年)	埼玉大学 浅枝 隆	B
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>河道内の藪化・樹林化は河川管理上重要な問題である。本課題では、わが国の河道内の植被率履歴の要因分析から原因把握を行った。次に、砂州上の洪水攪乱や植生の遷移に伴う栄養塩・土壌水分等の変化、大気負荷、冠水負荷、窒素固定、脱窒量等の計測結果より、制限栄養塩である窒素の循環量を定量化、これを基に草本植生量の評価、洪水に伴う樹木の侵入・生長・枯死の過程の定量化等を行って、樹林化動的予測モデルを開発した。</p>		
<p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>河川の樹林化を数値モデルに取り入れた研究で学術的な価値が高く、この研究により大きな進歩が得られた。植生、土砂、流水の総合管理のための数値モデル作成の試みとして評価でき、目的は概ね達成され、研究成果があったと言える。</p> <p>しかし、樹木管理や河川管理にどのように活かされるのかが分かりにくい部分があったことから、今後は、流砂量や流量等の外力の変化によってどのように樹木が変化し、どのように河川の樹木管理を実施すればよいかなど、実際の課題解決につながる知見が得られることが期待される。</p>		

#### ※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い